

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500146		
法人名	有限会社ティーム		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町大黒川1393-16		
自己評価作成日	平成 23 年5 月30 日	評価結果市町村受理日	平成23年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成23年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理や安全面に留意し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

森や田畑が広がる自然豊かな環境の中にある、2ユニットのグループホームである。近隣には小学校があり、中庭に出ると、子どもたちの通学風景が見られ、ほのぼのとした雰囲気のある環境である。職員全体が、事業所の理念である「仲間」「友情」を心に抱きながら、お互いを助け合いつつ、入居者の身体状況に応じた支援を行っている。また、ホームでは終末期に対する支援も備えられている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	A棟	B棟			A棟	B棟	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に向けて努力している。	実践に向けて努力している。	ホーム理念のもと、職員全体がチーム(仲間)としてお互いを助け合い、入居者の生活を支えていこうと日々取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加できた。出来る限り地域の活動に参加していきたい。	地域の区費を支払い、定期的なお便りや広報誌を配布してもらっている。地域のイベントの際は声をかけてもらっている。	地域の一員として、区費の支払い、お便りの回覧などがある。また、地域のお祭りへの参加、ホームが行う夏祭りなど行事に地域の方の参加を呼びかけるなど積極的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在ではできていない。	現在ではできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際のケアの取り組みを紹介し、ホームの理解をしていただけるよう努めた。	実際のケアの取組みを紹介し、ホームの活動や運営状況を理解して頂けるよう努めた。	運営推進会議が開かれ、家族や民生委員、市職員等の参加を得て、ケアの取り組み、ホームの活動について報告や意見交換がなされている。しかし、今年度は年2回の開催となっている。	引き続き、さらなるサービスの向上の為、会議の回数を増やしていき、2ヶ月に1回の開催を目指されることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話での連絡、相談を行い、協力関係を築いている。また、運営推進会議においてケアの取り組みについて報告した。	電話での連絡、相談を行い、協力関係を築いている。	市担当者への電話や運営推進会議の場での連絡や相談、報告等を行うなど日頃より関係作りに努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束を行う場合は、家族に書類を提示し了解を得た上で取り組み、定期的な検討会を開き現在は終了している。	勉強会を行い、理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束を行う場合は、家族に書類を提示し、了解を得ながら定期的な検討会を行っている。	生命の安全上、家族への説明と同意のもとに、やむを得ず拘束が行われているが、拘束継続の可否については定期的に検討が行われている。	引き続き、身体拘束検討を行いながら、拘束をしないケアを目指されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い防止に努めている。	勉強会を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらを活用できるように勉強会を行っている。	それらを活用できるように勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。運営推進会議の中で家族の意見を伺う機会をもった。	御意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。	面会時や電話連絡、運営推進会議などの機会を通して、話しやすい関係作りに努め、意見や要望等を聞き取れるように取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員採用時など職員の意見も積極的に反映させたり、状況に合わせた勤務時間を検討したりしている。	職員採用時など職員の意見も積極的に反映させている。	代表者や管理者は、日々の申し送りやミーティングなどで寄せられた意見を検討し、運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。処遇改善助成金の申請を行い、給与水準アップに努めた。また、食事会等を行い、職場全体での親睦も深めることができるようにした。	職員の個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。(処遇改善助成金の申請を行い、給与水準アップに努めた。研修旅行や食事会を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。	職員の個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャーの研修会に定期的に参加したり、グループホーム同志のやり取りを通して取り組んでいる。	ケアマネジャーの研修会に定期的に参加したり、グループホーム同志のやり取りを通して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご本人とのコミュニケーションを図り、本人の意向を尋ねながら安心を確保できるよう努めている	本人の意向や要望を確認しつつ関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご家族との話し合いを持ち、希望されることに耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている	家族の意向や要望を確認しつつ関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている。(医療機関による通所リハビリなど)	利用できるサービスは対応している。医療機関による通所リハビリへの送迎サービスを行い、他のサービス継続に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者がいてくださるからこそ私達存在できる事を心に留め、共に生活するもの同志の関係が築けるよう心掛けている	共に食事や家事を行い、共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とともにご本人を支えていけるよう健康状態等の変化については細めに連絡をしている。外泊が困難になられた方のご家族が、お正月ホームにて職員と共にケアして下さった。	定期的に家族と連絡を取り、共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リハビリ通院の継続、なじみの美容室の利用、地域の散歩やドライブ等の支援を行っている	家族との外出支援や地元方面へのドライブなど出来るだけ希望に応じて対応できるよう努めている。	通い慣れた医療機関、美容室の利用、以前住んでいた地域へのドライブ、家族との外出などの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳や目もご不自由な方には孤立されないよう細かな情報伝達を行い、利用者同志の関わり合いが出来るよう支援している	ご本人のニーズに合わせ、関わり合い、また、支えあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入院等で契約が終了しても、必要に応じ洗濯物の対応をしたり、定期的に訪問し状態を把握したりして、継続してフォローできるよう努めている。	入院された時はお見舞いに行き、経過報告や洗濯の代行を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人が希望される暮らしができるよう、お一人お一人の思いを把握できるよう努めている	家族からの情報や本人との会話などの中から意向を確認し、希望に添えるよう努めている。	会話や日々の関わりから、一人ひとりの思いや希望の把握に努められている。また、困難な方の場合には、これまでの生活歴、日々の行動や表情などから検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後も御家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と思い出話をしたりして情報収集に努めている。	本人やご家族、又はサマリーなどで情報を集め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の心身状態を把握し、無理のない一日が過ごせるよう午睡を促したりしている	毎日バイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、体調に応じてその日の過ごし方や作業内容の工夫を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリングを行い、ご本人がより良く暮らしていただけるようにチームで話し合っている。また、ご本人や、ご家族の意見も伺っている	3ヶ月に一度のケアプランのモニタリングを行い、ご家族に確認していただき、承諾を得ながら介護計画を作成している。	入居者、家族の意向、医療機関の意見など踏まえ、職員全体で話し合いながら、介護計画の作成が行われている。また、定期的に評価が行われ、必要に応じて随時、計画の見直しがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を詳細に行い、情報を共有すると共に状態の変化に即した介護計画を作成している	随時、介護記録を行い情報を共有しながら、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態等の変化に対応したサービスが即提供できるよう、ミーティングを密に行っている。また、空きベッドをショートステイで利用できるよう待機している。	本人やご家族のニーズに対応している。(葬儀参加時の送迎や付き添いなど)		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源、公民館行事の把握に努め、ホーム内に閉じこもらないように生活ができるよう支援している。	地域の行事に参加したり、囲碁のボランティアの方に来訪していただき、暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が希望される病院の受診ができるよう支援している	本人や家族の希望を大切に、医療を受けられるように支援している。	入居者や家族が希望する医療機関へ受診できるよう支援されている。通院には職員が同行し、医師との情報共有を行うなど関係作りに努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態等の変化があれば素早く看護職に伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援している	看護職と連携が図れるよう、情報や気づきを速やかに伝え、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師長に報告、相談を行うと共にMSWとの連携も密に行っている	入退院時の情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いはもとより、重度化された時にはご家族と再度話し合いを行いホームでできることを理解していただくとともに、小島病院との連携により医療体制を整えチームで支援している	重度化や終末に向けた方針を伝え、ホームで出来ることを確認しながら、医療機関との連携を図りつつ支援している。	重度化や終末期のあり方について方針が定められ、入居時に説明がなされている。また、状態に応じて、入居者や家族、かかりつけ医など関係者で話し合いながら、支援できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応法、応急手当等の勉強会を行い緊急時に備えている	緊急時マニュアルを設置し勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を行ったり、水害時の避難について確認し災害時に備えている。避難訓練では、地域の方々に参加していただくよう呼びかけた。	年に2回の日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。	消防署の協力の下、年2回、昼夜を想定した避難訓練や災害時の避難経路の確認など行われている。	

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を人生の先輩として敬い、人格者として尊重した言葉かけや、対応を心がけている	年配者への言葉かけであること(敬意を払うこと)を心がけながら対応を行っている。	入居者への誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないように取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日したいこと、今したいことをお尋ねし出来る限り対応できるよう努めている。また、個人個人が持つ思いや、希望が表出できるようお声かけしている	その都度、本人の希望を確認し対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りお年寄りのペースに合わせ、お一人お一人に応じた食事の時間や、希望に即した入浴が提供できるよう支援している	その都度、声をかけ、又確認を行ったうえで本人の思いを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面できない方はおしぼりを提供したり、整髪し身だしなみができるよう、お一人お一人に応じた支援をしている。また、理容師によるヘアークットを受け、さっぱりとさせていただいている。	本人に確認しながら、必要に応じて介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜や果物の皮むきをお願いしたり、おやつ作りを共に行い楽しんで頂いている。また、各人の力に合わせ、食後の片付けも共に行っている	職員も入居者の方といっしょに会話を楽しみながら、食事をしている。入居者の方も共に片付けを行っている。	入居者と会話をしながら、職員も一緒に食事を行っている。また、入居者の方ができる準備や片付けなど職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事の適量を把握し、また、各人の身体状態に応じた食事形態(おかゆ、刻み、トロミ付け等)を把握し提供している。また、栄養改善のための栄養ドリンク、サプリを飲用して頂いたり、糖尿病食を提供している。	個別に対応を行っている。又、必要に応じ水分チェックを行い量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人の力に応じた口腔ケアを行い、必要な方には歯ブラシだけでなく歯間ブラシを使用したり、コンクールを滴下した水でうがいをしている。	毎食後に口腔ケア誘導を行うがい薬を使用していただき、必要に応じ介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみながらトイレ誘導を行ない、自立できるよう支援している	定期的にトイレ誘導を行い自立支援に努めている。排泄誘導の声かけにより夜間おむつ内排泄の方が、トイレまで行き排泄できるようになった。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、声かけや誘導を行うなど、自立へ向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖を取り入れたり、運動を行い便秘の予防に努めている。	水分量や食物繊維の多く摂れる食事の提供に心がけ、必要に応じ薬の服用、又は使用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や、本人の気分に配慮し、個々に添った入浴ができるよう支援している	入浴日を決めてあるが、その日だけでは本人のニーズに合わない時があるため、確認を行いながら好きな時に入れるよう配慮している。	入居者の希望に応じて入浴できる体制がとられている。入浴を好まない方に対しては、声かけや促しのタイミングに配慮し、個々に沿った支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら午睡を促したり、冬の間は湯たんぽを入れ気持ちよく眠れるよう支援している	本人に確認を行いながら行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に勉強会を行ったり、症状の変化に伴う薬の変化についてもその都度確認している	個別に薬の副作用が分かるように書き出し、いつもと違う変化を見逃さないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の片付けや洗濯物たたみ等に役割を感じ張り合いを持って取り組まれている。また、ぬり絵や折り紙、ビーズ刺繍などを楽しみにされている方もあり、支援している	身体事情から、今まで出来ていた作業が出来なくなってきたりおられるが、会話や歌は楽しまれ、気分転換をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭やホーム周辺の散歩をしたり、ドライブをしたり、天気の良い日はなるべく戸外へ出られるよう支援している。また、ご家族の協力があり時々日中の帰省をされる方もあり、ご本人の希望にそった支援ができています	身体機能の低下により、外出が困難な方が増え、本人自身も外出を希望されなくなっているが、天気のいい日などは庭でひなたぼっこをしたり、近所までドライブに行くなどの支援をしている。	気候がよい時には中庭に出たり、ドライブに出かけるなどの機会を提供されている。また、家族の冠婚葬祭に際して、入居者に付き添い外出するなど柔軟な対応がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人の力や希望に応じた買い物が出来るよう支援している	各人の力や希望に応じて買い物が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の了承を得ながら、電話を希望される時にはすぐに対応している。また、娘さんから手紙やハガキが届き喜ばれている。こちらからは「ひなたぼっこ便り」をお送りして近況をお伝えしている。	希望があるときは支援している。中にはご本人が携帯電話を持参され、自由に家族と連絡を取られている方も居られる。また、家族からかかってきた、電話の取次や必要な時に応じては通訳を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な温度や湿度に配慮したり、換気にも心がけ空気清浄機も使用している。また、職員の声かけが混乱を招くことのないよう、正面から声のトーンに配慮したお声かけをしている	随時、室温と湿度の管理を行い、季節の花や置物で季節感を取り入れるよう工夫している。空気清浄機を使用し、居心地よい環境整備が出来るよう工夫している。	季節の花が飾られ、窓からは庭木のみどり見渡せる明るい空間で居心地よく過ごされている。また、空気清浄機の使用、適度な換気を行い、室内の空気や温度などにも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや椅子を置き、思い思いの場所で過ごしていただけるよう配慮している	自由に、食卓テーブルとソファに別れ、思い思いに過ごされている。車椅子移動が出来ない方は座る位置などご本人の意向を伺いながら配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来る限りご本人のなじみの物を持ってきていただくようお願いしている	持ち込みは自由で、本人の居心地のよい居室づくりに努めているが、車椅子の方は居室空間が狭くなりたくさん物が置けない状況である。	できるだけ、本人の馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう対応をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している	車椅子を使用される方が多くなり、自走されている方が玄関より落ちそうになり、玄関のフロアを増設した。		